

学校コード F114310104794

注3

設置年度 令和 2年度

計画の区分： 学部の学科の設置

注1

届出

注2

神奈川工科大学 健康医療科学部 臨床工学科

## 【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人幾徳学園

令和4年5月1日現在

作成担当者

経営管理本部 総務課

職名・氏名

ソウムカチョウ カジウラ ジュンイチ  
総務課長・梶浦 潤一

電話番号

046-241-1214

(夜間)

e-mail

soumu@kait.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に  
( )書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/mext\\_01087.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html)

# 目次

健康医療科学部

<臨床工学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	16
4. 既設大学等の状況	17
5. 教員組織の状況	18
6. 附帯事項等に対する履行状況等	36
7. その他全般的事項	37

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人幾徳学園

## (2) 大学名

神奈川工科大学

## (3) 調査対象大学等の位置

〒243-0292

神奈川県厚木市下荻野1030

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長 (理事長代行)	(タニムラ コウジ) 谷村 浩二 (平成31年4月)	(ナカベ ケンイチロウ) 中部 謙一郎 (令和2年9月)	病気療養中であった理事長が回復し、職務に復帰したため(令和2年9月2日) (3)
学長	(コミヤ カズミ) 小宮 一三 (平成21年4月)		
学部長	(マジマ マサタカ) 馬嶋 正隆 (令和2年4月)		
学科長等	(マツダ ヤスヒロ) 松田 康広 (令和2年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)

令和4年度に報告する内容 → (4)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部や学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください（作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」を確認してください）。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和4年度までの5年間）ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
健康医療科学部 臨床工学科 学士（工学）	工学関係	4 年	40 人	- 年次 人	160 人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期											
A 入学定員	人 -	人 -	人 -	人 -	人 40	人 -	人 40	人 -	人 40	人 -	人 40	人 -	0.94倍	-	
志願者数	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	310 [-]	(-) [-]	257 [-]	(-) [-]	190 [-]	(-) [-]	(-) [-]				
受験者数	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	295 [-]	(-) [-]	250 [-]	(-) [-]	189 [-]	(-) [-]	(-) [-]				
合格者数	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	161 [-]	(-) [-]	171 [-]	(-) [-]	155 [-]	(-) [-]	(-) [-]				
B 入学者数	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	35 [-]	(-) [-]	42 [-]	(-) [-]	36 [-]	(-) [-]	(-) [-]				
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	0.88	-	1.05	-	0.90	-	-				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ ( ) 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、( ( ) )書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出して下さい。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和4年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	35 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	42 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	36 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	
2年次	/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ - ] ( )	[ - ] ( )	[ - ] ( - )	[ - ] ( - )	
3年次			/		/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ - ] ( - )
4年次	/						/		/		[ ] ( )
計			[ ] ( )	[ ] ( )	[ - ] ( - )	[ - ] ( - )					35

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	33 人	2 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	2 人	0 人	学業不振(1名)、他の教育機関への転学(1名)
令和3年度	71 人	4 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	2 人	0 人	就学意欲の喪失(1人)、他の教育機関への転学(1人)
			令和3年度	2 人	0 人	就学意欲の低下(1人)、就職(1人)
令和4年度	107 人	0 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
合計		6 人		6 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{33} = \boxed{6.06} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{4}{71} = \boxed{5.63} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{107} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

<健康医療科学部 臨床工学科>

### (1) -① 授業科目表

#### 【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通基盤教育	スタディスキル	1前	1								兼2
	生命倫理	3前後	2								兼1
	暮らしの経済	1後・2前後	2								兼2
	日本国憲法	1後・2前後	2								兼3
	日本近現代史	1後・2前後	2								兼1
	ヨーロッパの歴史と文化	1後・2前後	2								兼1
	アジアの文化と社会	1後・2前後	2								兼1
	少子高齢化と社会問題	1後・2前後	2								兼1
	マスメディア論	1後・2前後	2								兼2
	宗教と倫理	1後・2前後	2								兼1
	比較文化論	1後・2前後	2								兼1
	芸術論	1後・2前後	2								兼1
	社会参加とボランティア	1後・2前後	2								兼1
	国際化と異文化理解	1後・2前後	2								兼2
	現代社会の心理学	1後・2前後	2								兼3
	環境論	1後・2前後	2								兼2
	人文社会科学演習	3前後	2								兼3
	哲学	2後・3前後	2								兼2
	倫理学	2後・3前後	2								兼1
	文学	2後・3前後	2								兼2
	教育学	2後・3前後	2								兼2
	心理学	2後・3前後	2								兼3
	政治学	2後・3前後	2								兼2
	経済学	2後・3前後	2								兼3
	法学	2後・3前後	2								兼2
	社会学	2後・3前後	2								兼2
	企業と経営	2後・3前後	2								兼1
	健康・スポーツ科学実習Ⅰ	1前	1								兼2
	健康・スポーツ科学実習Ⅱ	1後	1								兼1
	レクリエーションスポーツ	2前	1								兼1
	生涯スポーツ実技	2後	1								兼1
	学外スポーツ	1-2-3-4	1								兼1
	英語Ⅰ	1前	1								兼1
	英語Ⅱ	1前後	1								兼3
	英語Ⅲ	1前後・2前	1								兼9
	英語Ⅳ	1後・2前後	1								兼9
	英語Ⅴ	2前後	1								兼5
	英語Ⅵ	2後	1								兼2
	英会話Ⅰ	1前	1								兼2
	英会話Ⅱ	1後	1								兼2
総合英語演習	1前後	1								兼1	
TOEICⅠ	2後・3前	1								兼2	
TOEICⅡ	3前後	1								兼2	
文章表現技術	1後・2前	2								兼6	
プレゼンテーション技術	2前後	2								兼5	
技術文章の書き方	3前後	2								兼1	
身の回りの数学	1-2-3	2								兼2	
実感する科学Ⅰ	1-2-3	2								兼1	
情報リテラシー	1前	2								兼2	
小計(49科目)	-	3	77		0	0	0	0	0	0	兼64

#### 【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通基盤教育	スタディスキル	1前	1								兼1
	生命倫理	3前後	2								兼1
	暮らしの経済	1後・2前後	2								兼2
	日本国憲法	1後・2前後	2								兼3
	日本近現代史	1後・2前後	2								兼1
	ヨーロッパの歴史と文化	1後・2前後	2								兼1
	アジアの文化と社会	1後・2前後	2								兼1
	少子高齢化と社会問題	1後・2前後	2								兼1
	マスメディア論	1後・2前後	2								兼2
	宗教と倫理	1後・2前後	2								兼1
	比較文化論	1後・2前後	2								兼1
	芸術論	1後・2前後	2								兼1
	社会参加とボランティア	1後・2前後	2								兼1
	国際化と異文化理解	1後・2前後	2								兼1
	現代社会の心理学	1後・2前後	2								兼3
	環境論	1後・2前後	2								兼2
	人文社会科学演習	3前後	2								兼3
	哲学	2後・3前後	2								兼2
	倫理学	2後・3前後	2								兼1
	文学	2後・3前後	2								兼2
	教育学	2後・3前後	2								兼2
	心理学	2後・3前後	2								兼3
	政治学	2後・3前後	2								兼2
	経済学	2後・3前後	2								兼2
	法学	2後・3前後	2								兼3
	社会学	2後・3前後	2								兼2
	企業と経営	2後・3前後	2								兼1
	健康・スポーツ科学実習Ⅰ	1前	1								兼2
	健康・スポーツ科学実習Ⅱ	1後	1								兼1
	レクリエーションスポーツ	2前	1								兼1
	生涯スポーツ実技	2後	1								兼1
	学外スポーツ	1-2-3-4	1								兼1
	英語Ⅰ	1前	1								兼1
	英語Ⅱ	1前後	1								兼4
	英語Ⅲ	1前後・2前	1								兼7
	英語Ⅳ	1後・2前後	1								兼5
	英語Ⅴ	2前後	1								兼7
	英語Ⅵ	2後	1								兼4
	英会話Ⅰ	1前	1								兼2
	英会話Ⅱ	1後	1								兼2
総合英語演習	1前後	1								兼1	
TOEICⅠ	2後・3前	1								兼1	
TOEICⅡ	3前後	1								兼2	
文章表現技術	1後・2前	2								兼5	
プレゼンテーション技術	2前後	2								兼8	
技術文章の書き方	3前後	2								兼1	
身の回りの数学	1-2-3	2								兼1	
実感する科学Ⅰ	1-2-3	2					0			兼1	
情報リテラシー	1前	2								兼2	
小計(49科目)	-	3	77		0	0	0	0	0	0	兼53

【認可時又は届出時】

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育	医学概論	1前	2			1						
	解剖学	1前	2			1						
	基礎医学実習	1後	2			6	2		2			
	公衆衛生学	1後	2									兼1
	生理学	1後	2			1						
	病理学	2前	2			1						
	生化学	2前	2									兼1
	免疫学	2後	2									兼1
	薬理学	2後	2									兼1
	看護学概論	2前	2									兼9
	電気工学Ⅰ（直流回路、交流回路）	1前	2			1						
	電気工学Ⅱ（遠隔検疫、電磁気学）	1後	2			1						
	電気工学実習	1前	1			1						兼1
	電子工学Ⅰ（基礎）	2前	2				1					
	電子工学Ⅱ（発展）	2後	2				1					
	電子工学実習	2前	1				1					兼1
	医用電気電子工学実習	3前		1			1					兼1
	機械工学	1後	2			1						
	機械工学演習	1後	1			1						
	材料工学	2後	2			1	1					兼4
	計測工学	2前	2			1						
	応用数学	1前	2			1						
	応用数学演習	1前	1			1						
	医療統計学	2前		1		1						
	システム制御工学Ⅰ（基礎）	3前	2			1						
	システム制御工学Ⅱ（発展）	3後	2			1						
	システム制御工学実習	3前	1			1						
	情報処理工学	1後	2			1						
	情報処理工学実習	1後	1			1						
	医療情報セキュリティ	3前		2								兼1
小計（30科目）	—	48	4		8	2		2			兼21	
医用工学概論	1前	2			1							
生体計測機器学Ⅰ（基礎）	1後	2				1						
生体計測機器学Ⅱ（発展）	2前	2			1							
生体計測機器学実習	2前	2			7	2		2				
生体物性工学	3後	2				1						
医用機器学概論	1前	2			1							
医用治療機器学Ⅰ（基礎）	2前	2				1						
医用治療機器学Ⅱ（発展）	2後	2						1				
医用治療機器学実習	2後	2			3	1		2			兼3	
放射線概論	3後		2		1							
画像診断機器学	3後		2		1							
生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）	2前	2				1						
生体機能代行装置学Ⅱ（発展）	2後	2			1							
血液浄化装置学	2後	2			1							
呼吸療法装置学	3前	2				1						
体外循環装置学	3前	2						1				
生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）	3後	2			2	1		2				
生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）	3後	1			2	1		2				
医用機器安全管理学	3前	2				1						
医用機器安全管理学実習	3前	2			1				2			
関係法規	2後	2			1							
人間工学	2後		2		1							
臨床人間工学	3前		2		1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育	医学概論	1前	2			1						
	解剖学	1前	2			1						
	基礎医学実習	1後	2					4	2		2	
	公衆衛生学	1後	2									兼1
	生理学	1後	2						1			
	病理学	2前	2						0			兼2
	生化学	2前	2									兼1
	免疫学	2後	2									兼1
	薬理学	2後	2									兼1
	看護学概論	2前	2									兼8
	電気工学Ⅰ（直流回路、交流回路）	1前	2				1					
	電気工学Ⅱ（遠隔検疫、電磁気学）	1後	2				1					
	電気工学実習	1前	1				1					兼1
	電子工学Ⅰ（基礎）	2前	2					1				
	電子工学Ⅱ（発展）	2後	2					1				
	電子工学実習	2前	1					1				兼1
	医用電気電子工学実習	3前		1				1				兼1
	機械工学	1後	2				1					
	機械工学演習	1後	1				1					
	材料工学	2後	2				1	1				兼3
	計測工学	2前	2				1					
	応用数学	1前	2				1					
	応用数学演習	1前	1				1					
	医療統計学	2前		1			1					
	システム制御工学Ⅰ（基礎）	3前	2				1					
	システム制御工学Ⅱ（発展）	3後	2				1					
	システム制御工学実習	3前	1				1					
	情報処理工学	1後	2				1					
	情報処理工学実習	1後	1				1					
	医療情報セキュリティ	3前		2								兼1
小計（30科目）	—	48	4		9	2		2			兼21	
医用工学概論	1前	2				1						
生体計測機器学Ⅰ（基礎）	1後	2					1					
生体計測機器学Ⅱ（発展）	2前	2				1						
生体計測機器学実習	2前	2				7	1		2			
生体物性工学	3後	2				1	0					
医用機器学概論	1前	2				1						
医用治療機器学Ⅰ（基礎）	2前	2					1			1		
医用治療機器学Ⅱ（発展）	2後	2								1		
医用治療機器学実習	2後	2				3	1			1	兼4	
放射線概論	3後		2			1						
画像診断機器学	3後		2			1						
生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）	2前	2				2	1			0		
生体機能代行装置学Ⅱ（発展）	2後	2				2	1					
血液浄化装置学	2後	2				1						
呼吸療法装置学	3前	2					0			1	兼1	
体外循環装置学	3前	2								1	兼1	
生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）	3後	2				3	1		2		兼6	
生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）	3後	1				3	1		2		兼6	
医用機器安全管理学	3前	2				4	1			1	兼1	
医用機器安全管理学実習	3前	2				3	1			1	兼2	
関係法規	2後	2				1						
人間工学	2後		2			1						
臨床人間工学	3前		2			1						

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育	臨床医学総論Ⅰ(外科、内科、感染症等)	2後	2									兼3
	臨床医学総論Ⅱ(腎臓泌尿器系、消化器系等)	3前	2									兼2
	臨床医学総論Ⅲ(歯科科学、手術学)	3後	2									兼2
	臨床検査概論	3後		2			1					兼1
	救急救命医学	3後		2								兼3
	チーム医療論	4前		2		4	1		2			兼2
	臨床実習	4前	4			3	1		2			
	臨床工学セミナー	4前		2		7	2		2			
	卒業研究	4通	4			7	2		2			
小計(32科目)		—	51	16		7	2		2		兼13	
合計(111科目)		—	102	97		8	2		2		兼98	

卒業要件及び履修方法

共通基盤教育科目：合計21単位  
 必修 3単位、  
 選択 18単位  
 ・人文社会系 a群4単位、b群2単位、c群2単位  
 ・健康・スポーツ系 1単位  
 ・英語基盤系 4単位  
 ・言語応用系 3単位  
 ・数理情報系 2単位  
 専門教育科目：合計103単位  
 必修 99単位  
 ・専門基礎科目 48単位  
 ・専門応用科目 51単位  
 選択 4単位  
 ・専門基礎科目、専門科目から選択  
 任意科目：12単位  
 卒業要件：4年以上在籍し、136単位以上修得すること。

臨床工学技士の国家試験の受験資格を得るためには、医用電気電子工学実習、医療統計学、放射線概論、画像診断機器学、人間工学、臨床人間工学、臨床検査概論、救急救命医学、チーム医療論の9科目を履修しなければならない。

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育	臨床医学総論Ⅰ(外科、内科、感染症等)	2後	2								1	兼3
	臨床医学総論Ⅱ(腎臓泌尿器系、消化器系等)	3前	2								0	兼2
	臨床医学総論Ⅲ(歯科科学、手術学)	3後	2								0	兼4
	臨床検査概論	3後		2			0					兼1
	救急救命医学	3後		2			1					兼3
	チーム医療論	4前		2		4	1		2			兼3
	臨床実習	4前	4			4	1		2			
	臨床工学セミナー	4前		2		7	1		1			兼3
	卒業研究	4通	4			7	2		2			
小計(32科目)		—	51	16		9	2		2		兼29	
合計(111科目)		—	102	97		9	2		2		兼109	

卒業要件及び履修方法

共通基盤教育科目：合計21単位  
 必修 3単位、  
 選択 18単位  
 ・人文社会系 a群4単位、b群2単位、c群2単位  
 ・健康・スポーツ系 1単位  
 ・英語基盤系 4単位  
 ・言語応用系 3単位  
 ・数理情報系 2単位  
 専門教育科目：合計103単位  
 必修 99単位  
 ・専門基礎科目 48単位  
 ・専門応用科目 51単位  
 選択 4単位  
 ・専門基礎科目、専門科目から選択  
 任意科目：12単位  
 卒業要件：4年以上在籍し、136単位以上修得すること。

臨床工学技士の国家試験の受験資格を得るためには、医用電気電子工学実習、医療統計学、放射線概論、画像診断機器学、人間工学、臨床人間工学、臨床検査概論、救急救命医学、チーム医療論の9科目を履修しなければならない。

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通基盤教育	スタディスキル	1前	1								兼1
	生命倫理	3前後	2								兼1
	暮らしの経済	1後・2前後	2								兼2
	日本国憲法	1後・2前後	2								兼2
	日本近現代史	1後・2前後	2								兼1
	ヨーロッパの歴史と文化	1後・2前後	2								兼1
	アジアの文化と社会	1後・2前後	2								兼1
	少子高齢化と社会問題	1後・2前後	2								兼1
	マスメディア論	1後・2前後	2								兼2
	宗教と倫理	1後・2前後	2								兼1
	比較文化論	1後・2前後	2								兼1
	芸術論	1後・2前後	2								兼1
	社会参加とボランティア	1後・2前後	2								兼1
	国際化と異文化理解	1後・2前後	2								兼1
	現代社会の心理学	1後・2前後	2								兼3
	環境論	1後・2前後	2								兼2
	人文社会科学演習	3前後	2								兼3
	哲学	2後・3前後	2								兼2
	倫理学	2後・3前後	2								兼1
	文学	2後・3前後	2								兼2
	教育学	2後・3前後	2								兼2
	心理学	2後・3前後	2								兼3
	政治学	2後・3前後	2								兼2
	経済学	2後・3前後	2								兼2
	法学	2後・3前後	2								兼2
	社会学	2後・3前後	2								兼2
	企業と経営	2後・3前後	2								兼1
	健康・スポーツ科学実習Ⅰ	1前	1								兼2
	健康・スポーツ科学実習Ⅱ	1後	1								兼1
	レクリエーションスポーツ	2前	1								兼1
	生涯スポーツ実技	2後	1								兼1
	学外スポーツ	1-2-3-4	1								兼1
	英語Ⅰ	1前	1								兼1
	英語Ⅱ	1前後	1								兼4
	英語Ⅲ	1前後・2前	1								兼7
	英語Ⅳ	1後・2前後	1								兼7
	英語Ⅴ	2前後	1								兼6
	英語Ⅵ	2後	1								兼4
	英会話Ⅰ	1前	1								兼2
	英会話Ⅱ	1後	1								兼2
	総合英語演習	1前後	1								兼1
	TOEICⅠ	2後・3前	1								兼1
	TOEICⅡ	3前後	1								兼2
	文章表現技術	1後・2前	2								兼4
	プレゼンテーション技術	2前後	2								兼8
	技術文章の書き方	3前後	2								兼1
	身の回りの数学	1-2-3	2								兼1
	実感する科学Ⅰ	1-2-3	2				1				兼0
	情報リテラシー	1前	2								兼2
小計(49科目)	-	3	77		0	1	0	0	0	0	兼50

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通基盤教育	スタディスキル	1前	1								兼1
	生命倫理	3前後	2								兼1
	暮らしの経済	1後・2前後	2								兼2
	日本国憲法	1後・2前後	2								兼2
	日本近現代史	1後・2前後	2								兼1
	ヨーロッパの歴史と文化	1後・2前後	2								兼1
	アジアの文化と社会	1後・2前後	2								兼1
	少子高齢化と社会問題	1後・2前後	2								兼1
	マスメディア論	1後・2前後	2								兼2
	宗教と倫理	1後・2前後	2								兼1
	比較文化論	1後・2前後	2								兼1
	芸術論	1後・2前後	2								兼1
	社会参加とボランティア	1後・2前後	2								兼1
	国際化と異文化理解	1後・2前後	2								兼1
	現代社会の心理学	1後・2前後	2								兼3
	環境論	1後・2前後	2								兼2
	人文社会科学演習	3前後	2								兼3
	哲学	2後・3前後	2								兼2
	倫理学	2後・3前後	2								兼1
	文学	2後・3前後	2								兼2
	教育学	2後・3前後	2								兼1
	心理学	2後・3前後	2								兼2
	政治学	2後・3前後	2								兼2
	経済学	2後・3前後	2								兼2
	法学	2後・3前後	2								兼2
	社会学	2後・3前後	2								兼2
	企業と経営	2後・3前後	2								兼1
	健康・スポーツ科学実習Ⅰ	1前	1								兼2
	健康・スポーツ科学実習Ⅱ	1後	1								兼1
	レクリエーションスポーツ	2前	1								兼1
	生涯スポーツ実技	2後	1								兼1
	学外スポーツ	1-2-3-4	1								兼1
	英語Ⅰ	1前	1								兼1
	英語Ⅱ	1前後	1								兼4
	英語Ⅲ	1前後・2前	1								兼6
	英語Ⅳ	1後・2前後	1								兼7
	英語Ⅴ	2前後	1								兼7
	英語Ⅵ	2後	1								兼1
	英会話Ⅰ	1前	1								兼2
	英会話Ⅱ	1後	1								兼2
	総合英語演習	1前後	1								兼1
	TOEICⅠ	2後・3前	1								兼1
	TOEICⅡ	3前後	1								兼2
	文章表現技術	1後・2前	2								兼9
	プレゼンテーション技術	2前後	2								兼7
	技術文章の書き方	3前後	2								兼1
	身の回りの数学	1-2-3	2								兼1
	実感する科学Ⅰ	1-2-3	2								兼1
	情報リテラシー	1前	2								兼2
小計(49科目)	-	3	77		0	0	0	0	0	0	兼51

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育	医学概論	1前	2			1						
	解剖学	1前	2			1						
	基礎医学実習	1後	2			5	1		2			
	公衆衛生学	1後	2									兼1
	生理学	1後	2			1						
	病理学	2前	2			2						
	生化学	2前	2									兼1
	免疫学	2後	2									兼1
	薬理学	2後	2									兼1
	看護学概論	2前	2									兼9
	電気工学Ⅰ（直流回路、交流回路）	1前	2			1						
	電気工学Ⅱ（通達現象、電磁気学）	1後	2			1						
	電気工学実習	1前	1			1						兼1
	電子工学Ⅰ（基礎）	2前	2				1					
	電子工学Ⅱ（発展）	2後	2				1					
	電子工学実習	2前	1				1					兼1
	医用電気電子工学実習	3前		1			1					兼1
	機械工学	1後	2			1						
	機械工学演習	1後	1			1						
	材料工学	2後	2			1	1					兼3
	計測工学	2前	2			1						
	応用数学	1前	2			1						
	応用数学演習	1前	1			1						
	医療統計学	2前		1		1						
	システム制御工学Ⅰ（基礎）	3前	2			1						
	システム制御工学Ⅱ（発展）	3後	2			1						
	システム制御工学実習	3前	1			1						
	情報処理工学	1後	2			1						
	情報処理工学実習	1後	1			1						
	医療情報セキュリティ	3前		2								兼1
小計（30科目）	—	48	4		8	1		2			兼20	
医用工学概論	1前	2			1							
生体計測機器学Ⅰ（基礎）	1後	2				1						
生体計測機器学Ⅱ（発展）	2前	2			1							
生体計測機器学実習	2前	2			7	1		2				
生体物性工学	3後	2			1	0						
医用機器学概論	1前	2			1							
医用治療機器学Ⅰ（基礎）	2前	2				0		1				
医用治療機器学Ⅱ（発展）	2後	2						1				
医用治療機器学実習	2後	2			2	0		2			兼3	
放射線概論	3後		2		1							
画像診断機器学	3後		2		1							
生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）	2前	2			3	1		2				
生体機能代行装置学Ⅱ（発展）	2後	2			1							
血液浄化装置学	2後	2			1							
呼吸療法装置学	3前	2				0		1			兼1	
体外循環装置学	3前	2						1			兼1	
生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）	3後	2			2	0		2			兼5	
生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）	3後	1			2	0		2			兼5	
医用機器安全管理学	3前	2			3	1		1			兼1	
医用機器安全管理学実習	3前	2			3	1		1			兼2	
関係法規	2後	2			1							
人間工学	2後		2		1							
臨床人間工学	3前		2		1							

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育	医学概論	1前	2			1						
	解剖学	1前	2			1						
	基礎医学実習	1後	2			5	2		2			
	公衆衛生学	1後	2									兼1
	生理学	1後	2			1						
	病理学	2前	2			1						
	生化学	2前	2									兼1
	免疫学	2後	2									兼1
	薬理学	2後	2									兼1
	看護学概論	2前	2									兼9
	電気工学Ⅰ（直流回路、交流回路）	1前	2			1						
	電気工学Ⅱ（通達現象、電磁気学）	1後	2			1						
	電気工学実習	1前	1			1						兼1
	電子工学Ⅰ（基礎）	2前	2				1					
	電子工学Ⅱ（発展）	2後	2				1					
	電子工学実習	2前	1				1					兼1
	医用電気電子工学実習	3前		1			1					兼1
	機械工学	1後	2			1						
	機械工学演習	1後	1			1						
	材料工学	2後	2			1	1					兼4
	計測工学	2前	2			1						
	応用数学	1前	2			1						
	応用数学演習	1前	1			1						
	医療統計学	2前		1		1						
	システム制御工学Ⅰ（基礎）	3前	2			1						
	システム制御工学Ⅱ（発展）	3後	2			1						
	システム制御工学実習	3前	1			1						
	情報処理工学	1後	2			1						
	情報処理工学実習	1後	1			1						
	医療情報セキュリティ	3前		2								兼1
小計（30科目）	—	48	4		8	2		2			兼21	
医用工学概論	1前	2			1							
生体計測機器学Ⅰ（基礎）	1後	2				1						
生体計測機器学Ⅱ（発展）	2前	2			1							
生体計測機器学実習	2前	2			7	2		2				
生体物性工学	3後	2			1							
医用機器学概論	1前	2			1							
医用治療機器学Ⅰ（基礎）	2前	2				1						
医用治療機器学Ⅱ（発展）	2後	2						1				
医用治療機器学実習	2後	2			2	1		2			兼2	
放射線概論	3後		2		1							
画像診断機器学	3後		2		1							
生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）	2前	2				1					兼5	
生体機能代行装置学Ⅱ（発展）	2後	2			1						兼5	
血液浄化装置学	2後	2			1							
呼吸療法装置学	3前	2				1						
体外循環装置学	3前	2						1				
生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）	3後	2			2	1		2				
生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）	3後	1			2	1		2				
医用機器安全管理学	3前	2				1						
医用機器安全管理学実習	3前	2			4			2			兼2	
関係法規	2後	2			1							
人間工学	2後		2		1							
臨床人間工学	3前		2		1							

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育	臨床医学総論Ⅰ(外科、内科、感染症等)	2後	2			0				1		兼3
	臨床医学総論Ⅱ(腎臓泌尿器系、消化器系等)	3前	2							1		兼2
	臨床医学総論Ⅲ(歯科科学、手術学)	3後	2							1		兼3
	臨床検査概論	3後		2		0						兼1
	救急救命医学	3後		2		1						兼3
	チーム医療論	4前		2		4	1			2		兼3
	臨床実習	4前	4			3	0			2		
	臨床工学セミナー	4前		2		7	1			1		兼3
	卒業研究	4通	4			7	1			2		
小計(32科目)	-	51	16		8	1			2		兼26	
合計(111科目)	-	102	97		8	2			2		兼95	

卒業要件及び履修方法

共通基盤教育科目：合計21単位  
 必修 3単位、  
 選択 18単位  
 ・人文社会系 a群4単位、b群2単位、c群2単位  
 ・健康・スポーツ系 1単位  
 ・英語基盤系 4単位  
 ・言語応用系 3単位  
 ・数理情報系 2単位  
 専門教育科目：合計103単位  
 必修 99単位  
 ・専門基礎科目 48単位  
 ・専門応用科目 51単位  
 選択 4単位  
 ・専門基礎科目、専門科目から選択  
 任意科目：12単位  
 卒業要件：4年以上在籍し、136単位以上修得すること。  
 臨床工学士の国家試験の受験資格を得るためには、医用電気電子工学実習、医療統計学、放射線概論、画像診断機器学、人間工学、臨床人間工学、臨床検査概論、救急救命医学、チーム医療論の9科目を履修しなければならない。

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育	臨床医学総論Ⅰ(外科、内科、感染症等)	2後	2			1						兼3
	臨床医学総論Ⅱ(腎臓泌尿器系、消化器系等)	3前	2									兼2
	臨床医学総論Ⅲ(歯科科学、手術学)	3後	2									兼2
	臨床検査概論	3後		2								兼1
	救急救命医学	3後		2								兼3
	チーム医療論	4前		2		5	1			2		兼2
	臨床実習	4前	4			3	1			2		
	臨床工学セミナー	4前		2		7	1			1		兼3
	卒業研究	4通	4			6	2			2		
小計(32科目)	-	51	16		7	2			2		兼23	
合計(111科目)	-	102	97		8	2			2		兼95	

卒業要件及び履修方法

共通基盤教育科目：合計21単位  
 必修 3単位、  
 選択 18単位  
 ・人文社会系 a群4単位、b群2単位、c群2単位  
 ・健康・スポーツ系 1単位  
 ・英語基盤系 4単位  
 ・言語応用系 3単位  
 ・数理情報系 2単位  
 専門教育科目：合計103単位  
 必修 99単位  
 ・専門基礎科目 48単位  
 ・専門応用科目 51単位  
 選択 4単位  
 ・専門基礎科目、専門科目から選択  
 任意科目：12単位  
 卒業要件：4年以上在籍し、136単位以上修得すること。  
 臨床工学士の国家試験の受験資格を得るためには、医用電気電子工学実習、医療統計学、放射線概論、画像診断機器学、人間工学、臨床人間工学、臨床検査概論、救急救命医学、チーム医療論の9科目を履修しなければならない。

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
  - ・ **1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。**
  - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。  
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
  - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・「スタディスキル」担当兼任教員辞退のため、2名から1名に変更。
- ・「日本国憲法」担当兼任教員辞退のため、3名から1名に変更。
- ・「国際化と異文化理解」担当兼任教員辞退のため、2名から1名に変更。
- ・「教育学」担当兼任教員辞退のため、2名から1名に変更。
- ・「心理学」担当兼任教員辞退のため、3名から2名に変更。
- ・「経済学」担当兼任教員辞退のため、3名から2名に変更。
- ・「英語Ⅱ」担当兼任教員追加のため、3名から4名に変更。
- ・「英語Ⅲ」担当兼任教員辞退のため、9名から6名に変更。
- ・「英語Ⅳ」担当兼任教員辞退のため、9名から7名に変更。
- ・「英語Ⅴ」担当兼任教員追加のため、5名から7名に変更。
- ・「英語Ⅵ」担当兼任教員辞退のため、2名から1名に変更。
- ・「TOEIC」担当兼任教員辞退のため、2名から1名に変更。
- ・「文章表現技術」担当兼任教員追加のため、6名から9名に変更。
- ・「プレゼンテーション技術」担当兼任教員追加のため、5名から7名に変更。
- ・「身の回りの数学」担当兼任教員辞退のため、2名から1名に変更。
- ・「医用治療機器学実習」専任教員辞退のため、「教授3名」から「教授2名」、担当兼任教員辞退のため3名から2名に変更。
- ・「生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）」担当兼任教員を5名追加。
- ・「生体機能代行装置学Ⅱ（発展）」担当兼任教員を5名追加。
- ・「医用機器安全管理学実習」専任教員追加のため、「教授1名」から「教授4名」、担当兼任教員を2名追加。
- ・「臨床医学総論Ⅰ（外科、内科、感染症等）」専任教員「教授1名」を追加。
- ・「臨床医学総論Ⅲ（麻酔科学、手術部医学）」担当兼任教員追加のため、2名から3名に変更。
- ・「臨床検査概論」専任教員辞退のため、「教授1名」から「教授0名」に変更。
- ・「チーム医療論」専任教員追加のため、「教授4名」から「教授5名」に変更。
- ・「臨床工学セミナー」専任教員辞任のため、「准教授2名」から「准教授1名」、「助教2名」から「助教1名」に変更。担当兼任教員3名を追加。
- ・「卒業研究」専任教員辞任のため、「教授7名」から「教授6名」に変更。

【令和3年度】

- ・「心理学」担当兼任教員追加のため、2名から3名に変更。
- ・「英語Ⅲ」担当兼任教員追加のため、6名から7名に変更。
- ・「英語Ⅴ」担当兼任教員辞退のため、7名から6名に変更。
- ・「英語Ⅵ」担当兼任教員追加のため、1名から4名に変更。
- ・「文章表現技術」担当兼任教員辞退のため、9名から4名に変更。
- ・「プレゼンテーション技術」担当兼任教員追加のため、7名から8名に変更。
- ・「実感する科学Ⅰ」専任教員追加のため、「准教授1名」担当兼任教員辞退のため、1名から0名に変更。
- ・「基礎医学実習」専任教員辞任のため、「准教授2名」から「准教授1名」に変更。
- ・「病理学」専任教員追加のため、「教授1名」から「教授2名」に変更。
- ・「材料工学」担当兼任教員辞退のため、4名から3名に変更。
- ・「生体計測機器学実習」専任教員辞任のため、「准教授2名」から「准教授1名」に変更。
- ・「生体物性工学」専任教員担当変更のため、「教授0名」から「教授1名」、「准教授1名」から「准教授0名」に変更。
- ・「医用治療機器学Ⅰ（基礎）」専任教員担当変更のため、「准教授1名」から「准教授0名」、「助教0名」から「助教1名」に変更。
- ・「医用治療機器学実習」専任教員辞任のため、「准教授1名」から「准教授0名」、担当兼任教員追加のため2名から3名に変更。
- ・「生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）」専任教員追加のため、「教授0名」から「教授3名」、「助教0名」から「助教2名」、担当兼任教員辞退のため、5名から0名に変更。
- ・「生体機能代行装置学Ⅱ（発展）」担当兼任教員辞退のため、5名から0名に変更。
- ・「呼吸療法装置学」専任教員担当変更のため、「准教授1名」から「准教授0名」、「助教0名」から「助教1名」に変更。担当兼任教員1名追加。
- ・「体外循環装置学」担当兼任教員1名追加。
- ・「生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）」専任教員辞任のため、「准教授1名」から「准教授0名」に変更。担当兼任教員5名追加。
- ・「生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）」専任教員辞任のため、「准教授1名」から「准教授0名」に変更。担当兼任教員5名追加。
- ・「医用機器安全管理学」専任教員追加のため、「教授0名」から「教授3名」、「助教0名」から「助教2名」に変更。担当兼任教員1名追加。
- ・「医用機器安全管理学実習」専任教員担当変更のため、「教授4名」から「教授3名」、「准教授0名」から「准教授1名」、「助教2名」から「助教1名」に変更。
- ・「臨床医学総論Ⅰ（外科、内科、感染症等）」専任教員担当変更のため「教授0名」から「教授1名」、「助教0名」から「助教1名」に変更。
- ・「臨床医学総論Ⅱ（腎臓泌尿器系・消火器系等）」専任教員追加のため「助教0名」から「助教1名」に変更。
- ・「臨床医学総論Ⅲ（麻酔科学、手術部医学）」専任教員追加のため、「助教0名」から「助教1名」に変更。担当兼任教員追加のため、2名から3名に変更。
- ・「チーム医療論」専任教員辞退のため、「教授5名」から「教授4名」に変更。担当兼任教員追加のため、2名から3名に変更。
- ・「臨床実習」専任教員辞任のため、「准教授1名」から「准教授0名」に変更。
- ・「卒業研究」専任教員担当変更のため、「教授6名」から「教授7名」、「准教授1名」から「准教授0名」に変更。

## 【令和4年度】

- ・「日本国憲法」担当兼任教員追加のため、2名から3名に変更。
- ・「法学」担当兼任教員追加のため、2名から3名に変更。
- ・「英語Ⅳ」担当兼任教員辞退のため、7名から5名に変更。
- ・「英語Ⅴ」担当兼任教員追加のため、6名から7名に変更。
- ・「文章表現技術」担当兼任教員追加のため、4名から5名に変更。
- ・「実感する科学Ⅰ」専任教員担当変更のため、「准教授1名」から「准教授0名」、兼任教員追加のため、0名から1名に変更。
- ・「基礎医学実習」専任教員担当変更及び追加のため、「教授5名」から「教授4名」、「准教授1名」から「准教授2名」に変更。
- ・「病理学」専任教員担当変更、「教授2名」から「教授0名」、兼任教員追加のため、0名から2名に変更。
- ・「看護学概論」担当兼任教員辞退のため、9名から8名に変更。
- ・「医用治療機器学Ⅰ（基礎）」専任教員追加のため、「准教授0名」から「准教授1名」に変更。
- ・「医用治療機器学実習」専任教員追加のため、「教授2名」から「教授3名」、「准教授0名」から「准教授1名」、「助教2名」から「助教1名」、担当兼任教員3名から4名に変更。
- ・「生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）」専任教員担当変更のため、「教授3名」から「教授2名」、「准教授1名」から「准教授2名」、「助教2名」から「助教0名」に変更。
- ・「生体機能代行装置学Ⅱ（発展）」専任教員追加のため、「教授1名」から「教授2名」、「准教授0名」から「准教授1名」に変更。
- ・「生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）」専任教員追加のため、「教授2名」から「教授3名」、「准教授0名」から「准教授1名」、担当兼任教員追加のため、5名から6名に変更。
- ・「生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）」専任教員追加のため、「教授2名」から「教授3名」、「准教授0名」から「准教授1名」、担当兼任教員追加のため、5名から6名に変更。
- ・「医用機器安全管理学」専任教員追加のため、「教授3名」から「教授4名」に変更。
- ・「臨床医学総論Ⅱ（腎臓泌尿器系、消化器系等）」専任教員担当変更のため、「助教1名」から「助教0名」に変更。
- ・「臨床医学総論Ⅲ（麻酔科学、手術部医学）」専任教員担当変更のため、「助教1名」から「助教0名」、担当兼任教員追加のため、3名から4名に変更。
- ・「臨床実習」専任教員追加のため、「教授3名」から「教授4名」、「准教授0名」から「准教授1名」に変更。
- ・「卒業研究」専任教員担当追加のため、「准教授1名」から「准教授2名」に変更。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
  - ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
53 科目	58 科目	0 科目	111 科目	53 科目 [ ±0 ]	58 科目 [ ±0 ]	0 科目 [ ±0 ]	111 科目 [ ±0 ]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

### (3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

### (4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

### (5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

(該当なし)

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{111} = \boxed{\phantom{00}}0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。  
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
	校舎敷地	87,669.16㎡	0㎡	0㎡	87,669.16㎡				
	運動場用地	38,015.93㎡	0㎡	0㎡	38,015.93㎡				
	小 計	125,685.09㎡	0㎡	0㎡	125,685.09㎡				
	そ の 他	8,818.66㎡	0㎡	0㎡	8,818.66㎡				
	合 計	134,503.75㎡	0㎡	0㎡	134,503.75㎡				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
		98,308.56㎡ ( ) ㎡	) ㎡ ( ) ㎡	) ㎡ ( ) ㎡	98,308.56㎡ ( ) ㎡				
(3) 教 室 等		講 義 室 77室	演 習 室 34室	実験実習室 94室	情報処理学習施設 14室 (補助職員3人)	語学学習施設 1室 (補助職員0人)			
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称 健康医療科学部 臨床工学科		室 数 20 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	令和4年5月資料の継続収集による追加購入のため(4)	
	健康医療科学部 臨床工学科	874〔10〕 822 ( 874〔10〕 )	13〔0〕 ( 13〔0〕 )	1〔1〕 ( 1〔1〕 )	67 41 67 41	( )	( )		
	計	874〔10〕 822 ( 874〔10〕 )	13〔0〕 ( 13〔0〕 )	1〔1〕 ( 1〔1〕 )	67 41 67 41	( )	( )		
(6) 図 書 館		面 積 5,021.54㎡	閱 覧 座 席 数 663席 629席	収 納 可 能 冊 数 232,000冊	昨年度報告内容の誤り(4)				
(7) 体 育 館		面 積 6706.61㎡	体育館以外のスポーツ施設の概要 野球場1面、サッカー場1面、テニスコート4面						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	令和4年5月誤って管理栄養学科の値で報告していたため修正(4)
		教員1人当り研究費等	238千円	238千円	図書購入費	277千円 530千円	259千円 517千円	274千円 517千円	
	共同研究費等	10,761千円	10,761千円	設備購入費	千円	千円	千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,660千円	1,480千円	1,500千円	1,520千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等							

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	神奈川県立大学					学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度
工学部										
機械工学科	4	120		480	学士(工学)	1.11	1.10		昭和50年度	神奈川県厚木市下荻野1030
電気電子情報工学科	4	78		312	学士(工学)	1.23	1.25		昭和50年度	同上
応用化学科	4	60		240	学士(工学)	0.88	0.81		昭和50年度	同上
情報学部										
情報工学科	4	170		635	学士(工学)	1.07	1.14		平成15年度	同上
情報ネットワーク・コミュニケーション学	4	110		410	学士(工学)	1.23	1.04		平成16年度	同上
情報メディア学科	4	180		675	学士(工学)	1.06	1.15		平成16年度	同上
創造工学部										
自動車システム開発工学科	4	55		220	学士(工学)	0.92	0.65		平成20年度	同上
ロボット・メカトロニクス学科	4	50		200	学士(工学)	1.06	0.92		平成20年度	同上
ホームエレクトロニクス学科	4	40		160	学士(工学)	1.13	1		平成20年度	同上
応用バイオ科学部										
応用バイオ科学科	4	125		500	学士(工学)	0.8	0.56		平成20年度	同上
健康医療科学部										令和2年度学部学科再編(届出)
看護学科	4	80		320	学士(看護学)	0.99	0.98		平成27年度	看護学部看護学科から再編
管理栄養学科	4	40		280	学士(栄養学)	0.8	1.17		平成22年度	応用バイオ科学部栄養生命科学科から再編
臨床工学科	4	40		160	学士(工学)	0.93	0.90		平成27年度	工学部臨床工学科から再編
大学全体		1148		4592						
工学研究科博前期課程										
機械工学専攻	2	14		28	修士(工学)	0.35	0.35		平成元年度	神奈川県厚木市下荻野1030
電気電子工学専攻	2	16		32	修士(工学)	1.12	1.12		平成元年度	同上
応用化学・バイオサイエンス専攻	2	16		32	修士(工学)	0.59	0.62		平成元年度	同上
機械システム工学専攻	2	14		28	修士(工学)	0.5	0.57		平成2年度	同上
情報工学専攻	2	18		36	修士(工学)	1.05	1		平成5年度	同上
ロボット・メカトロニクスシステム工学専攻	2	6		12	修士(工学)	0.58	0.5		平成22年度	同上
工学研究科博士後期課程										
機械工学専攻	3	2		6	博士(工学)	0	0		平成5年度	同上
電気電子工学専攻	3	2		6	博士(工学)	0.16	0.5		平成6年度	同上
応用化学・バイオサイエンス専攻	3	2		6	博士(工学)	0.5	1		平成5年度	同上
機械システム工学専攻	3	2		6	博士(工学)	0.33	1		平成5年度	同上
情報工学専攻	3	2		6	博士(工学)	0.83	0		平成8年度	同上
大学院全体		94		198						大学院の修業年限は、修士課程2年、博士課程(後期)3年である。

(注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。  
 ・学部/学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず、履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。  
 ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。  
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。  
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。



(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・松田康広教授の「基礎医学実習」は、他の専任教員がいるため支障は無い。
- ・松尾崇教授に「病理学」、「医用機器安全管理学実習」を追加する。「基礎医学実習」は、他の専任教員がいるため支障は無い。
- ・鈴木聡教授に「医用機器安全管理学実習」、「臨床医学総論Ⅰ（外科、内科、感染症等）」を追加する。
- ・「血液浄化装置学」は、他の専任教員がいるため支障は無い。
- ・山家敏彦教授に「血液浄化装置学」を追加する。「基礎医学実習」は、他の専任教員がいるため支障は無い。
- ・渡邊紳一教授に「医用機器安全管理学実習」を追加する。
- ・馬嶋正隆教授の「医用治療機器学実習」、「卒業研究」は、他の専任教員がいるため支障は無い。
- ・木浦千夏子准教授の「臨床工学セミナー」は、他の専任教員がいるため支障は無い。
- ・渡邊晃広助教の「臨床工学セミナー」は、他の専任教員がいるため支障は無い。

【令和3年度】

- ・木浦千夏子准教授の辞任に伴い、「生体物性工学」は松田康広教授が担当、「基礎医学実習」は山家敏彦教授が担当、「卒業研究」は馬嶋正隆教授が担当、「生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）」「医用機器安全管理学」は大瀧保明准教授が担当、「医用治療機器学Ⅰ（基礎）」は西村宗修助教が担当、「呼吸療法装置学」は川崎路浩助教が担当、「医用治療機器学実習」「生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）」「生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）」「チーム医療論」は兼任講師が担当、「生体計測機器学実習」「臨床実習」は、他の専任教員がいるため支障は無い。
- ・渡邊晃広助教の辞任に伴い、「基礎医学実習」「生体計測機器学実習」「体外循環装置学」「医用治療機器学実習」「生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）」「生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）」「チーム医療論」「臨床実習」「卒業研究」は川崎路浩助教が担当、「医用治療機器学Ⅱ（発展）」は西村宗修助教が担当、「医用機器安全管理学実習Ⅱ」は、他の専任教員がいるため支障は無い。
- ・松尾崇教授に「基礎医学実習」「生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）」「医療機器安全管理学」を追加する。
- ・鈴木聡教授に「生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）」「医用機器安全管理学」「救急救命医学」を追加し、「臨床医学総論Ⅰ（外科、内科、感染症等）」は川崎路浩助教が担当する。
- ・山家敏彦教授に「生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）」「医用機器安全管理学」を追加する。
- ・渡邊紳一教授の「医用機器安全管理学実習」は大瀧保明准教授が追加する。
- ・河口進一教授に「医用機器安全管理学」を追加する。

【令和4年度】

- ・磯村恒教授の辞任に伴い、「システム制御工学Ⅰ（基礎）」「システム制御工学Ⅱ（発展）」「システム制御工学実習」は河口進一教授が担当する。
- ・令和4年4月専任教員就任深澤伸慈教授は、西村宗修助教の「医用治療機器学実習」、松尾崇教授の「医用機器安全管理学」「医用機器安全管理学実習」「生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）」、渡邊紳一教授の「チーム医療論」に加え「生体機能代行装置学Ⅱ（発展）」「生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）」「生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）」「臨床実習」「卒業研究」を担当する。
- ・令和4年9月専任教員就任予定の金大永教授は、松尾崇教授の「材料工学」「画像診断機器学」を担当する。
- ・令和4年4月専任教員就任酒井徳昭准教授は、松尾崇教授の「基礎医学実習」「卒業研究」、鈴木聡教授の「生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）」に加え、「医用治療機器学Ⅰ（基礎）」「医用治療機器学実習」「生体機能代行装置学Ⅱ（発展）」「生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）」「生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）」「チーム医療論」「臨床実習」を担当する。
- ・松尾崇教授、馬嶋正隆教授の「病理学」は兼任講師が担当する。
- ・西村宗修助教の「臨床医学総論Ⅲ（麻酔科学、手術部医学）」「臨床医学総論Ⅱ（腎臓泌尿器系、消化器系等）」は兼任講師が担当、「生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）」は他の専任教員がいるため支障は無い。
- ・川崎路浩の「生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）」は、他の専任教員がいるため支障は無い。

【令和5年度】

- 

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（A C教員審査）を受けてください。**A C教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書（A C）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
12	6
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
8	2	0	2	12	1	8	2	0	2	12	0
(8)	(2)	(0)	(2)	(12)	(1)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
8	2	0	2	12	0	9	3	0	0	12	0
[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ Δ1 ]	[ +1 ]	[ +1 ]	[ 0 ]	[ Δ2 ]	[ 0 ]	[ Δ1 ]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、  
教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、  
「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、  
 [ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、  
 [ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員 うち、定年を延長し て採用する教員数
70 65	4	2
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{12}{12} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{4}{12} = \boxed{33.33} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{1} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	准教授	木浦 千夏子	R3.3	必修	基礎医学実習	①	R3.3.31付け一身上の都合のため辞任（3）			
				必修	生体計測機器学実習	③				
				必修	生体物性工学	①				
				必修	医用治療機器学Ⅰ（基礎）	①				
				必修	生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）	①				
				必修	呼吸療法装置学	①				
				必修	医用機器安全管理学	①				
				必修	医用治療機器学実習	②				
				必修	生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）	② ①				
				必修	生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）	② ①				
				選択	チーム医療論	② ①				
				必修	臨床実習	③ ①				
必修	卒業研究	①								
2	助教	渡邊 晃広	R3.3	必修	基礎医学実習	①	R3.3.31付け一身上の都合のため辞任（3）			
				必修	生体計測機器学実習	①				
				必修	医用治療機器学Ⅱ（発展）	①				
				必修	体外循環装置学	①				
				必修	医用機器安全管理学実習	③ ②				
				必修	医用治療機器学実習	①				
				必修	生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）	①				
				必修	生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）	①				
				選択	チーム医療論	①				
				必修	臨床実習	①				
必修	卒業研究	①								
3	教授	磯村 恒	R4.3	必修	システム制御工学Ⅰ（基礎）	①	定年年齢を超過しての再雇用であったが R4.3.31付け一身上の都合のため辞任（4）			
				必修	システム制御工学Ⅱ（発展）	①				
				必修	システム制御工学実習	①				
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
3	人	必修	25	科目	必修	22	科目	必修	2	科目
		選択	2	科目	選択	2	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	27	科目	計	24	科目	計	2	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計(D) + (F)				後任補充状況の集計(E) + (G)							
辞任等した教員数		担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)			
3	人	必修	25 科目	必修	22 科目	必修	2 科目	必修	1 科目		
		選択	2 科目	選択	2 科目	選択	0 科目	選択	0 科目		
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目		
		計	27 科目	計	24 科目	計	2 科目	計	1 科目		

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{3}{12} = \boxed{25} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

(注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
合計				後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( ) 書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

大学の所見として、授業や国家試験の学習、臨床工学技士としての技術修得に影響ないように対応する。その周知については、臨床工学科のオリエンテーションおよびクラス担任から学生に伝えている。

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

## 6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (令和2年)	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任職員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について着実に実施すること。	遵守事項 教員組織の将来構想に基づき、教授1名が退職し、教授1名と准教授1名を採用した。今年度中に教授1名が退職し、教授1名を採用することが決まっている。	履行中 完成年度末までに教授1名が退職し、准教授1名が教授へ、助教2名が准教授へ昇任する予定である。新規採用として、教授1名を計画している。

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

<健康医療科学部 臨床工学科>

### (1) 設置計画変更事項等 (該当なし)

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策 (FD・SD活動含む)

#### ① 実施体制

##### a 委員会の設置状況

教務委員会 (添付資料1)

教育開発センター運営委員会 (添付資料2)

3つのポリシー運用委員会 (添付資料3)

##### b 委員会の開催状況 (教員の参加状況含む)

教務委員会：月に1回 (その他随時) 会議を開催。委員として各学科より1～2名選出。

本学科より委員として1名参加。

教育開発センター運営委員会：月に1回 (その他随時) 会議を開催。各学科より教育開発センター運営委員として1名参加。

3つのポリシー運用委員会：年に2回 (その他随時) 会議を開催。各学科より学科長が運用委員として参加。

##### c 委員会の審議事項等

教務委員会：

- ・ カリキュラム、学籍、成績・進級・卒業、単位認定等の審議及び報告・連絡。

教育開発センター運営委員会：

- ・ 教育のPDCAの実施と検証に関わることがら。
- ・ 教員の教育力向上に関わることがら。

3つのポリシー運用委員会：

- ・ 3つのポリシーの策定・運用・評価・改善に関する事項。
- ・ 3つのポリシーに基づく到達目標・教育計画・入試計画の達成度評価に関する事項。

#### ② 実施状況

##### a 実施内容

- ・ 学士課程の構築
- ・ 授業方法について
- ・ 授業評価アンケート
- ・ 教員相互の授業参観
- ・ 新任教員のための研修会
- ・ 教職員研修会

##### b 実施方法

- ・ 教務委員会・教育開発センター・3つのポリシー運用委員会にて発案・協議され、その後大学協議会にて承認がなされ学長により決定される。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 授業アンケート：令和3年度前期、後期に各1回行った。
- ・ 教員相互の授業参観：新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、オンデマンド式授業の例を公開した。
- ・ 教職員研修会：新型コロナウイルス感染症感染拡大のためオンラインで実施した。
- ・ 教員自己点検評価の実施：専任教員全員提出。令和3年12月に結果の解析・分析結果をまとめ冊子として配布。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

令和3年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、多くの授業がオンライン授業となった。オンライン授業の改善のため、学内・学科内で各教員の取り組みについて情報共有した。例年は、授業アンケートの結果を各教員に報告し、授業方法の改善を促している。「授業改善ヒント集」冊子を作成し、全教職員に配布すること、評価の高い授業を授業参観に推奨すること、さらに教員研修会で学力向上に関するテーマを取り上げることにより、教員の授業力向上をはかり、学生の学力レベルアップを目指している。学科内でカリキュラムチェックを行い、各科目のシラバスに反映させ、授業改善に取り組んでいる。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

令和3年度 前期：6月21日（月）～7月3日（土）および後期：1月11日（火）～1月29日（土）の2回行った。

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケートの大学全体の集計結果およびアンケート結果に対する教員のコメントをつけて「2021年度 より良い教育を目指して」と題する冊子を作成し、全教職員に配布するとともに学生も閲覧できるようにしている。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。  
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

「該当なし」

#### (4) 自己点検・評価等に関する事項

##### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

今日の高度な医療機器を適切に運用・操作するためには、医療に関する専門知識や技術のみならず、工学的専門知識や思考法をしっかりと身に付けている人材の育成が急務であるとの社会的要請に基づき本学科を設置した。医療従事者として必要となる幅広い視野や人間性を養い、臨床工学に関する専門的知識と実践的技術を有し、チーム医療の中で役割を果たすことのできる人材の養成を教育の目的にしている。平成27年の設置以来、学生のここまでの教育環境の違いから学力差があり、特に物理・数学科目に大きな差があった。よって全ての専門科目において、学生の理解度や学習困難点を毎回の授業で確認し、学科教員間で学生の状況を共有して教授法を工夫した。また、臨床工学技士の業務や臨床工学科での学びについて十分理解していない学生もみられ、専門科目を重ねることで臨床工学技士になる覚悟を持つよう指導した。学科FD活動として、半期ごとに、全教員の全担当科目について、授業の実施状況、試験・評価の状況、アンケート結果を報告し、改善のための討論を行っている。平成30年度から4年生に対して臨床実習と卒業研究の実施、就職情報提供と指導、国家試験対策演習の実施を行っている。令和3年度、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響はあったが、5～8月に臨床実習を実施することができた。令和4年3月に第4期卒業生を送り出した。

また、幅広い視野や人間性を養うために、外部医療施設・関係者との交流、学園祭での学生・教員協働による機器展示など、学生がいろいろな人と接する機会を積極的に設けている。教員の関わる学術大会では多くの学生がボランティアスタッフとして参加し、参加者から好評を得ている。令和3年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大のため学園祭がオンライン実施となったが、学術大会は再開されてきており、学生の参加を再開していきたい。令和2年4月、健康医療科学部に再編された。これまでの臨床工学科の教育を継続していくとともに、看護学科、管理栄養学科との連携により、地域社会における保健・医療・福祉サービスの発展と向上に貢献するための教育を進めていく。令和3年12月には、看護学科・管理栄養学科と合同で、4年生を対象に他職種連携教育の特別講義を実施した。このように、設置目的に関しては、計画達成に向かって着実に歩んでいる。

##### ② 自己点検・評価報告書

###### a 公表（予定）時期

- ・ 6月末日

###### b 公表方法

- ・ ホームページにて公表。  
評価機関（大学基準協会）の点検評価項目を満たした内容として、各年度の事業報告書を公表しており、是正・改善項目についても含まれている。
- ・ 自己点検・評価報告書を刊行し、教職員全員及び希望があった学生に各1冊を配布のほか、関連大学および厚木中央図書館へ配付

##### ③ 認証評価を受ける計画

- ・ 令和7年に評価機関（大学基準協会）の認証評価を受ける予定。  
なお、平成30年に今回の設置届出に係る学部学科再編以前の、工学部臨床工学科として評価機関（大学基準協会）の認証評価を受け、適合認定（認定期間：平成31年4月1日～令和8年3月31日）を受けている。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和4年度）

a 公表予定の有無 [  有 ・ 無 ]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [  調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降 ]

c 公表方法 [  ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ） ]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 [ ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、  
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。